

令和5年度 学校経営報告

		令和5年度の取組と自己評価			次年度以降の課題と対応策 (★重点課題)
柱	教育活動の目標取組と自己評価	重点目標への取組と自己評価	数値目標等の達成度合い		
I 学習指導	1 補習講習の充実・学習習慣の定着・読書活動の推進	(1) 授業による学力の一層の定着と補習・講習の充実により、進路希望実現に必要な学力を身に着けさせる。	★長期休業中や放課後等の補習・講習を教務部が中心となり対象者・目的を明確にして計画を立て実施でき、講座数も微増した。英語科は継続した実施がチームで行えた。	★長期休業中講座 63講座(60講座) ○放課後の補習・講習を、英語は年間を通じて実施、他教科も実態に即し実施した。	○長期休業の補習・補講は次年度も60講座以上継続する。 ★教科会と模試の分析を連携させ、課題を把握し、講座の設定を検討。学力を定着・向上できる仕組みを構築する。
		(2) 学習習慣の定着を図る。	○教科会を充実させていく必要性を感じる。実施方法について改善する。 ○自習環境は補償でき、活用されてはいたが、一層の整備、活用について今後検討が必要である。 ○資格試験の奨励が、組織的になっていなく、受験者の数値の伸び悩み、進路に活用できる選択肢を狭めている。資格試験をも学習の一環として組織的な指導を行う ○学習コンテンツ(スタディサプリを導入している)、Teamsの活用が進み、課題配信などの予習、復習の一部として活用が進んだ。	○1日30分以上の家庭学習 60%(57%) ○漢検準1級・2級・準2級合格者 11名(10名) ○英検2級、準2級合格 60名(70名)	○教科会を年間計画に位置付け、年間指導計画、評価計画を共通理解し、生徒の学力を分析して授業改善に努める。 ○資格試験が組織的になっておらず受験者、合格者が少ない。資格試験を学習の一環として考えていく。 ○英検準会場実施。90%の生徒の最低1回の受験を目標とする。 ○組織的な手続きを行う担当部署の明確化。 ○受験料の負担軽減の方策を増やす。 ○家庭学習について学習コンテンツの活用を充実させ、課題配信を行うなど、工夫・改善を図る。
		(3) 読書活動を推進し読解力向上を目指す。	★教科では国語での図書館の活用が促進された。図書館の活用方法を様々提示していただいているが、学習活動で有効に活用を進めていくことで図書館利用が増加する。	○月2冊以上本を読む生徒 18%(15%) ○成瀬高校との読書交流会実施	★図書館運営委員会が中心となり、学年や教科会、探究担当等読書習慣につながる活動の計画を行い、推進する。 ○月2冊以上読む生徒を全体の20%以上とする。
	2 授業改善	(4) 授業力向上のために、指導内容と方法の検証と改善、工夫等を行う。	○年2回、相互授業見学期間を設け実施し、特に若手教員の授業見学、ICT活用が進んでいる教員の参観が増加した。 ○報告書のフィードバックが進まなかった。組織的な授業力向上に向け検討する。 ○教師道場、他校授業見学は、若手を中心に進んだ。オンライン授業見学について周知したが実態把握ができなかった。	○チャイム着席する習慣、時間を守る意識の生徒87%(89%) ○生徒の授業満足度 87%(88%) ○教材研究、指導方法を工夫している。 教員94%(100%) 生徒81%(73%)	○チャイム着席の習慣の定着は継続して取り組む。 ○全教員が他教員の授業見学を行い、授業改善に活かす意識を高める。 ○若手教員の授業見学後の協議を充実させ、全体で授業の取組について検討できる仕組みを定着する。 ○次年度は、授業満足度90%以上とする。
		(5) 個別最適な学び、協働的な学びを促進し、生徒がICTを活用しながら自ら学習を調整して学ぶことができるようにする。	★一人1台端末活用の促進は、情報管理運営委員会の運営が進み少しずつ活用が進んでいる。生徒の年度当初の設定の不具合により、授業での使用が進まない現状があった。 ★デジタルを活用した授業は、デジタルサポーターのミニ講習で活用する教員が増えた。 ○管理面の課題が残った。	○思考力・判断力・表現力を育てる授業 教員86%(96%) 生徒87%(85%) ○授業が学力向上や進路実現に役立っている 教員87%(95%) 生徒84%(82%)	★「情報管理委員会」から「ICT推進委員会」へ名称変更し業務整理を行った。一人一台端末活用の設定をオリエンテーションで実施することで各教科で当初からの活用を推進する。 ★デジタルサポーターのミニ講習が有効だったので、課題に応じた研修を進める。

		○アクティブ・ラーニング等、思考力・表現力等の伸長や、協働的な学習の定着は、教科、教員間での差が生じている。		○教員に研修案内や動画の配信、紹介を随時していきながら、研鑽のきっかけづくりを行う。	
	(6)「生徒による授業評価」結果を分析し授業に反映させる。	○「生徒による授業評価」を、年2回実施したが、授業改善に生かすためのフィードバックの方法に課題を残した。	○教材研究、指導方法を工夫している。 教員94% (100%) 生徒81% (73%)	○「生徒による授業評価」アンケートの方法、内容を再確認し、検証に有効なものとする。また、教科会でアンケート内容について協議し、教科内での指導方法を検討する。	
	(7)学力スタンダード、模擬試験等の結果を教科会で検討し、到達目標を明確化した上で、教科指導の改善に努める。	★観点別評価について、高等学校教育指導課指導主事による研修会を開催し、理解促進を図った。それを踏まえて教科主任会を実施し、本校の基準について整理できた。 ○模擬試験が3か年の進路計画として、組織的に理解が進んでおらず、次年度に向けて、進路部で3か年の模試計画を策定した。 ○教科会で定期考査、課題テスト等の分析、課題発見と改善策を行えているか把握する方法を構築しきれなかった。	○思考力・判断力・表現力を育てる授業 教員86% (96%) 生徒87% (85%)	★昨年度の研修で、知識の土台が構築できているので、観点別評価と指導の一体化を目指して、各教科で観点別評価による授業改善、実践に結びつける。 ○学校として模試の3か年計画を見直したので、実施、検証する。 ○予算編成により、教員の授業に関する研修の機会を増やす。	
	3 総合的な探究の時間	(8)「総合的な探究の時間」を中心に、キャリア教育を推進し、自己の在り方・生き方を模索し、課題発見とその解決に取り組ませる。	○「総合的な探究の時間」の人員配置や委員会の稼働が遅れてしまったことが課題である。 ○「探究アソシエイト校」として、探究フォーラムで学校の取組を紹介した。他校の実践を知る機会にできた。 ○地域に関する探究等体験活動等は外部連携もあり、事前事後学習も連携ができ、充実した内容となった。	○「自己や人間関係を考えるきっかけとなった」 74% (68%) ○「自分の将来を考えた」 73% (77%)	○「総合的な探究の時間」のブラッシュアップが進んでいるので、効果的に運営できるプロジェクトチームを編成して計画を実践する。 ○「地域探究アソシエイト校」最終年度として、引き続き地域の探究やキャリア教育を生かした探究活動の総括をし、探究フォーラムで発信する。取組が継続する組織体制を確立する。 ○「自己や人間関係を考える」「自分の将来を考える」80%以上。
		(9)異文化体験等を通して、グローバルなものの見方を養う。	○国際理解教育を推進する部署が決まっていないが、TGGサマーキャンプの参加等、都の施策を活用することで生徒の希望を実現し、促進できた。	○TGGサマーキャンプ参加者6名 ○次世代リーダー育成道場参加者1名	○TGGの活用、TGGサマーキャンプの参加促進、オンライン交流等、都の施策を有効活用して国際理解教育を促進する。
Ⅱ 生活指導	1 基本的な生活習慣の確立	★生徒保健部が中心となり、学年と連携しながら全校で実施はしたが、指導基準の統一性にやや課題を残した。 ○挨拶については、生徒、教員ともできており、地域や外部から良好な評価をいただけた。	○学校の規則を遵守している94% (91%) ○時間の管理ができている87% (89%)	★生徒保健部に、本校の統一した指導基準を策定させた。生徒の自律を基本とした指導を全校体制で実施する。 ○学校の規則を遵守 95%以上 ○時間の管理ができている90%以上 ○挨拶ができて95%以上	

	(2) 自転車安全運動指導推進校の成果を生かし、取組を充実させる。	<p>★交通安全教室、薬物乱用防止教室は、外部人材や「輪トレ」を有効に活用し、実態に即した内容が実現されつつある。</p> <p>○地域自治体との連携した避難訓練は、入念な計画の元、意味のある実践ができた。</p> <p>○ルールやマナーについては、今年度から始業式・終業式での分掌講話を入れて、継続的に生徒に周知を行い、自主性を重んじた指導を行えている。</p>	<p>○登下校のマナーができています 97% (99%)</p> <p>○挨拶ができています 93% (89%)</p>	<p>★ヘルメット着用に関する具体的取組の工夫と保護者への周知理解の促進を図る。</p> <p>★「輪トレ」等の外部機関との連携による自転車安全運転指導の推進</p> <p>○地域自治体との連携した避難訓練は、継続して実施する。</p>
2	<p>(3) 自己と他者を尊重する態度を育てる。</p> <p>(4) 問題行動の早期発見早期対応に努める。</p> <p>(5) 情報モラルについて学校教育の多様な場面で考えさせる。</p>	<p>○「いじめ対策委員会」は、2件のいじめの疑いについて、委員会の招集および具体的手だてについて共有し、迅速に役割を分担し、丁寧かつスピード感を大切にしながら解決に向かえた。</p> <p>★SNSによるトラブルが増えている。セーフティ教室は実施しているが、継続した指導や取り組みの工夫が必要である。「小川高校SNSルール」を活用した生徒からの発信や、保護者会の機会やリーフレットの活用による家庭との連携強化が課題である。</p>	<p>○安全・安心な学習環境が保たれている 90% (89%)</p> <p>○いじめをなくすための積極的な対応ができています 86% (89%)</p> <p>○生徒の悩みに適切な対応ができています 86% (81%)</p> <p>○情報モラルの理解 96% (97%)</p>	<p>○「生徒支援委員会」に名称を変更し、多様な課題や困りごとに対する生徒支援体制を構築する。</p> <p>○安全・安心な学習環境が保たれている 90%以上。</p> <p>○いじめをなくすための積極的な対応ができています 90%以上</p> <p>○生徒の悩みに適切な対応ができています 90%以上</p> <p>★情報モラルの理解 98%以上</p>
	(6) 校内や近隣の清掃美化、花壇の整備等に取り組む。	<p>○生徒会やボランティア部の活動は継続的に実施できていた。生徒会においては、ベンチの色塗りなど自発的な取組が環境整備につながっていた。自主性の醸成を継続したい。今後は委員会の活動を活性化し活動機会を増やしたい。</p>	<p>○美化委員による清掃活動、生徒会を中心とした有志も募った花壇の整備等を実施</p> <p>○校内美化に努めている 92% (86%)</p>	<p>○美化委員会の活性化。生徒主体の取組を促進し、自ら学校の美化に取り組めるような活動を考えさせる。</p> <p>○ボランティア部を中心とした花壇整備の活動を一層活性化させる。</p> <p>○校内美化に努めている 90%以上</p>
目 特別活動・部活動	1 学校行事	<p>(1) 生徒会を中心とした主体的な取組を支援し、学校行事を充実させる。</p> <p>★体育祭、文化祭、合唱祭は自発的な運営を目指し、教員がその趣旨を十分に理解し、生徒がお互いに協力し合い、自発的・主体的に取り組めるような指導ができたことで、良い形で実施ができた。さらなる内容の質的充実を図る。</p> <p>○生徒会活動が以前より活発になりこの方向性を維持したい。</p>	<p>○学校行事や委員会の積極的な取組 91% (86%)</p>	<p>○主体性を育成する学校行事の在り方を目指す。主体的な活動の維持が本校の伝統的な良さとなるよう生徒を支援する。</p> <p>○学校行事や委員会の積極的な取り組み 85%</p>
		<p>(2) 日本の伝統文化を理解発信する取り組みを積極的に行う。</p> <p>○文化祭等においては茶道部や図書委員会を中心に、日本文化を紹介する機会を生かした。</p>		<p>○日本の伝統文化に触れる機会を各教科、部活動で何かしら工夫する</p> <p>○芸術鑑賞教室の実施を継続する。</p>
	2 部活動	<p>(3) 部活動を通じて、達成感、連帯感、自他尊重の精神を養う。</p> <p>○部活動方針の保護者理解・生徒、顧問間の共通理解はおおよそできているが、一部の部でトラブルがあったので、全部活動で徹底していく。</p> <p>○文化・スポーツ等特別推薦の導入により、町田市の中学等の周知を経て生徒を確保することができた。</p>	<p>○部活動への積極的な取組 77% (71%)</p> <p>○部活加入率 77% (76%)</p> <p>○体罰ゼロ</p>	<p>○文化・スポーツ等特別推薦で入学した生徒の育成による部活動の活性化</p> <p>○町田市をはじめとする近隣地域との部活動を通じた交流、練習等を積極的に実施する。</p> <p>○部活加入率 80%</p> <p>○体罰ゼロ</p>

			<p>○経営企画室と同窓会の協力を 経て、部活動の顕著な実績に関 して横断幕を作成した。そのこ とにより、地域や中学校への広 報が進んだ。</p>		<p>○地域、中学校等との交流試 合等を通して広報活動を活 発にする。</p>
Ⅳ 健康 ＳＨＳ	1 健康 保持 増進	<p>(4) 学校と家庭、地域 関係者が連携し、生 徒が健康で安心・安 全に学校生活を送れ るようにする。</p>	<p>○助産師による性に関する指導 を健康講話としてPTAと連携 して実施ができ、現在の課題 に即した取組が進んだ。 ○体力テストは従前どおりの取 組であるが、次年度はシステ ムが導入されるので事前事後 指導の充実につなげる。 ○マラソン大会等、授業と行事 を連動させた取組が今年度も 実施できた。体力低下が数値 として現れ、体力向上の取組 は継続したい。 ○保健体育、家庭科等の教科指導 での取り扱いは適切であった。 ○学校保健委員会は、諸事情に より紙面開催となった。次年 度は意見交換を行いたい。</p>	<p>○熱中予防等事故発生時の対応 の理解を深めた。 ○体調不良や怪我への適切な 対応 90% (90%) ○「保健だより」の発行</p>	<p>○事故発生時の対応訓練につ いて生徒はもとより、教員の 組織体制を周知徹底する。 ○基本的生活習慣や健康三原 則(栄養・運動・休養)の定着を 養護教諭、保健体育科、家庭科 を中心に努める。 ○保健委員会の活動の活性化。</p>
	2 教育 相談	<p>(5) 「学校いじめ対策 委で教育相談体制を 確立し、取組を促進 することで、心身と もに、健康に学校 生活を送れるように 支援する。</p>	<p>★スクールカウンセラーの連携、 エリアネットワークの活用を進 めることができ、教員の理解が 進んでいる。次年度は情報共有 を密にし、教育相談を組織的に 推進する。 ○組織的な運営、機能を目指し、 年間6回の特別支援教育委員会は 具体策を講じることができ、発達 課題のある生徒の共通理解や支 援につなげることができた。</p>	<p>○カウンセラーによる課題のあ る生徒の対応方法の研修 ○特別支援教育委員会 6回開催 (4回) ○生徒の悩みへの適切な対応 86% (81%)</p>	<p>○スクールカウンセラーの全 員面接による課題の早期把 握。実施時期の検討。 ○生徒支援教育を月1回開催 することにより、状況把握と 支援体制の検討を継続して 行う。 ○センター校との連携によ り、課題対応について助言を いただく。 ○校内研修による対応の共有</p>
Ⅴ 進 路 指 導	1 面談 の充 実	<p>(1) 生徒一人ひとりの 学習状況や進路希 望状況を踏まえた面 談の実施により、進 学に対する意識を 喚起させ、「第一志 望」の進路実現への 取組を支援する。</p>	<p>★進路部が中心となり、前年以 上に学年・教科が連携して、共 通テスト等の大学入試の動向 について情報提供が進んだ。 ★進路部による保護者会での情 報提供が進み、保護者から良 い評価を得られた。 ○三者面談の実施状況は、全員 と実施できていないクラスもあ る。保護者との進路の共通理解 を図るために全員実施できるよ う努力したい。</p>	<p>○進路希望達成率 89% (86%) ○進路資料や進路講話の充実 92% (92%) ○進路相談や面談などの充実 93% (92%) ○計画的な進路指導 89% (88%)</p>	<p>○1年次では二者面談の全員 実施。2年次では二者面談、三 者面談の全員実施を目標に早 期に進路の見通しを立てなが ら保護者と共有した丁寧な指 導を行う。 ○進路希望達成率90% ★本校の系統的な進路ガイ ダンス等の取組を計画的に実施 し、意識付けを行う。</p>
	2 進路 指導	<p>(2) 生徒のニーズや 新大学入試等に対応 した系統的進路ガイ ダンスプログラムを 充実させる。 (3) 教員の進路指導 力と教科指導力を相 乗的に生徒に還元 し、その実績を さらに向上させる。</p>	<p>○進路部の外部人材確保が進み、 大学等の活用が促進され、進路ガ イダンスや進路行事が充実した。 保護者向けにも講演会等が実施 でき好評であった。 ○進路行事の学年との連携が定 着し、中身の濃いものにできた。 今後も拡大学年会を中心にニ ーズに対応する進路の取組を行う。</p>	<p>○大学共通テスト 受検者 89名 (107名) 大学進学 146名 (158名) 短大進学 6名 (13名) 専門学校 58名 (52名) ○学力調査問題 1,2年5教科で年2回(10・3月) ○課題テスト1,2年で3回 (6、9、1月) ○実力テスト等3回 (4、9、11月)</p>	<p>★1年次では職業理解、上級 学校体験を行い、意識の醸成 を行う。 ○文理選択科目について丁寧 で具体的な進路をイメージし た説明会の実施。 ○卒業生や同窓会を有効に活 用し、直接先輩の取組を伝え ることで生徒のモチベーショ ンを向上させる。 ○スタディサポート、実力テ ストを1,2年3回継続して、研 修を実施する</p>

	3 就職指導	(5) 生徒の希望や適性を考慮しながら、望ましい勤労観・職業観を育て、社会の一員として活躍できる資質や態度を育成する。	○総合型選抜入試受験者等に対する小論文・志望理由書についての指導を、組織的に推進するまでには至らず、進路部や学年が中心となっていた。多様な進路実現のための体制構築が課題となった。 ★進路部が中心となり、模試分析会、情報提供を外部人材を活用して適時実施ができた。 ○模試の結果分析については、全教員で共有するまで至っていない。 ○就職希望者が3人であったが、丁寧な支援は行えた。	○就職3名(5名)	○オープンキャンパスへの参加を早期に進めるとともに、教員も進路部を中心とした情報共有をした上で、生徒・保護者への還元、相談を行う ○公務員の就職希望を実現させる。 ○総合型選抜入試受験者等に対する小論文・志望理由書についての指導を、組織的に推進する。多様な進路実現のための体制を整える。 ○模試の結果分析を教員研修で実施が目標。
Ⅱ 募集・広報活動	ホームページ・学校案内	(1) 様々な方法を活用して、本校に関する情報を、正確・迅速に発信し、本校の理解を深めてもらうことで、第一志望の受験生を確保する。	★ホームページの仕組が変更になり、数値的には更新回数が減ったが、情報管理運営委員会を中心に、掲載内容を最新にする、「小川日記」による日々の活動発信はしっかり実施できた。 ○学校案内の内容について十分に検討できなかったことが反省点である。次年度に向けてデザインや内容の検討に早めに取り掛かる。 ○効果的な発信や、学校生活の取組の随時発信がホームページだけでは足りない。他の方法(SNS等)を並行して活用する。 ○学校説明会は、本校の生徒の良さを前面に出すために、生徒主体の運営に切り替えたところ、大変好評を得ることができた。次年度はパワーポイントの内容の改善等、さらに工夫を重ねる。 ○東京都PR事業の活用は次年度となるため。検討が必要。	○校内の学校説明会中学生数 2705名 ○OHPの更新 232回(420回) ○OHP閲覧月1回以上 保護者39%(38%) 生徒 15%(13%) ○OHPはPR活動に役立つ 教職員90%(92%) 保護者82%(81%) 生徒 77%(75%)	★HPの更新について、組織体制の構築、継続を行う。掲載記事の工夫(授業等学校生活全般の広報)と効果的な発信方法の構築。 ○生徒主体の説明会を継続し生徒から本校の良さを発信、中学生に本校生徒の様子を見ていただく。 ○SNS等の媒体を活用した募集活動の促進。 ○パワーポイントの内容の検討。
	2 学校説明会等	(2) 学校説明会・学校見学会等の機会を積極的に利用し、組織的・計画的に広報活動を推進し、参加者のニーズに応え、受験生に本校への理解を深めてもらう。	★全校体制で分担して学校見学・説明会、体験授業、出前授業、部活動体験等を実施できた。今年度は外部説明会の参加を増やし、本校の認知に努め、学校説明会の参加人数増加につながられた。 ○今年度は多摩南部等に向けた塾説明会を復活させ実施し、情報交換を行えた。また、多摩、稲城、八王子方面の説明会に参加した。	○塾訪問年2回 塾説明会年1回 塾訪問年1回 ○外部説明会の参加4か所	○生徒による運営を主体とした説明会の実施。 ○中学生来訪者数実数 2000名以上 ○塾訪問年2回、塾説明会年1回、塾訪問年1回 ★特色ある学校の取組(地域との連携等)のPRの強化 ○外部説明会の積極的な参加。
Ⅲ 地域交流等	1 施設開放	(1) 施設開放の利用調整を行い、公開講座を開催する。	○都民にテニスコート、グラウンドを開放できた。 ○公開講座は、小学生向け科学の実験講座を実施することができた。	○施設開放24日(24日) ○公開講座1講座実施(0)	○グラウンドやテニスコートの開放を実施 ○公開講座は1講座を予定

2 地域とのかかわり	(2)「地域探究推進事業アソシエイト校」の取組等を通して、地域との連携により、地域貢献意識を高める。	○町田市消防署、警察、自治体と連携し、地域避難所の運営および初期消火訓練を実施し、共助の役割を学ぶことができた。 ○成瀬地域のイベント、行事の参加や花壇の整備などをコロナ前の活動状況にて実施できた。 ○1年のボランティアを町田市の協力を得て、事前事後学習を含め実施でき、自己有用感を高められた。 ★授業の一環で、町田市議にお越しいただき、市議の役割について、生徒たちと交流することができ、地域の課題発見等につなげることができた。	○本校の避難所施設として運営会議へ2度参加。 ○地域と連携に協力的 地元自治会94% (85%)	○「地域探究推進事業アソシエイト校」としての活動を一層具現化し推進する。 ○地域防災訓練では、地域の人たち、消防署等の期間と協働で取り組む実践的なプログラムを一層推進する。
1 学校経営	(1) 情報共有を徹底するとともに、業務の効率化を推進し、ライフ・ワーク・バランスの実現を図る。	★都の情報を知り、会議で情報提供、周知することを積極的に行い、理解を促進しながら事前準備を大切に業務を進めた。 ○業務の在り方を検討し、今年度は会議のペーパーレス化を重点的に進め、作業の縮減、予算の改善につながった。	○拡大分学会3回 拡大学年会2回 の実施。 ○教職員のお互いの協力度 66% (85%)	○職員会議、成績会議、企画調整会議のペーパーレス化の促進。 ○メリハリのある(必要なことには時間をかけ、効率化できるものは変えてゆく) 業務遂行。
2 OJT・人材育成	(2) 体罰、セクハラ、個人情報保護など、服務事故ゼロの校内体制を維持し充実させる。	○教員面接、校内研修、日常声かけ等、服務意識の徹底を重点的に図ってきたが、服務事故ゼロを達成できなかった。 ○体罰はゼロを維持できた。	○体罰ゼロ	○企画調整会議、職員会議の校長連絡に服務に関する啓発を必ず入れる。
3 学校評価	(3) 主幹教諭、主任教諭を活用し、組織的・継続的なOJTを実施することで、人材育成を行う。	○職層に応じた役割を会議や面接で明示し、課題の明確化を図った。特に副校長に協力を仰ぎ、ミドルリーダの育成をOJTにて実施した。前進が見えているので継続する。 ○職層に応じた役割分担が不十分なため、次年度に向けて整理をし、組織的で計画的な人材育成を行う体制を整えた。 ○起案について経営企画室長により紙面で周知を実施。	○アンケート回収率 生徒 57% (75%) 保護者20% (26%) 教職員89% (84%)	○職層の役を明確化し、職層に応じた自己点検、指導・助言の担当を早期に決定し、継続して計画的・組織的な人材育成に取り組ませる。
4 読書活動	(5) 学校運営連絡協議会保護者、同窓会、地域等の意見・要望を学校経営に活用する。	○学校評価アンケートは、保護者・地域からの回収率を高め学校経営に十分反映させる。	○アンケートの回収率を上げる工夫を実施 生徒 100% 保護者 70% 教職員 100%	○学校の回収率を上げる工夫を実施 生徒 100% 保護者 70% 教職員 100%
	(6) 学校司書・司書教諭を中心に、教科・学年・分掌と連携して言語活動の活性化を図る。	○国語の授業でビブリオバトルの予選に取り組み、代表選抜では学校図書館専門員の協力を経て取組ができた。 ○国語は教科指導で図書館を積極的に活用できた。探究活動で活用できる蔵書を増やしたので活用を進めたい。 ○学校図書館専門員の協力の元、相互貸借システムの施行校としての運営の役割を果たせた。	○図書貸出数 2,482冊 (2130冊)	○授業内、授業外での図書館利用の一層の促進 ○ビブリオバトルの全校的取り組みの維持促進。 ○進路活動に関連した図書館の有効活用の工夫 ○図書委員会の主体的な活動への一層の取り組み。

		○図書委員会の主体的な取組は維持することができている。 (貸出返却、読書週間、図書館だより、ポスター作成等)			
5	予算編成	(7)必要な品目を重点的に予算配分し、計画的・効果的に執行する。施設・設備・備品を適正に管理し、有効に活用する。	○経営企画室の進捗、進行管理が十分でなく、予算については不具合が生じた。また、予算の決定、周知が遅れた。 ○施設の修繕・工事が多岐にわたり実施され、安全確保と教育活動の調整に努め、実施が進んでいる。	○一般需用費センター利用率 57.9% (53.8%)	○一般需用費学校経営支援センター利用率60%以上 ○予算執行率99%以上
6	授業料・学校徴収金	(8) 経営企画室と教員が連携し、収納及び執行管理を行う。	○担当が未納者に対して迅速な督促を行えたことで、未納者0を達成できた。 ○学校徴収金については、一部調整が必要な案件があったが、担当が調整を図り、予算執行をすることができ、生徒の教育活動を補償できた。	○予算執行率 98% (99%) ○学校徴収金の未納率0% (0) ○授業料納入対象者の未納率0% (0)	○授業料及び就学支援金の支給に関わる適正・迅速化を継続して図る。
		(9) 公的支援に関して、確実な周知と適切な対応を行う。	○就学支援金・給付型奨学金・多子世帯における授業料等支援事業等の制度について、適時ホームページにて周知できた。また、各申請書類は督促を適切に行い回収を図ることができた。		